

間違わない補聴器の

選び方
着け方
(6)最終回

博士補聴器 代表

由井 宏知

補聴器を効果的に使いこなす

生活の質を向上させるために



近年では性能の向上が著しく随分使いやすくなっています。一方、補聴器を使用しただけからといって突然何でも聞こえるようになるわけではないということも事実です。個人差はありますが、補聴器が「役に立つ」と感じるようになるまでにはある程度「慣れ」の時間が必要です。

半年間にわたって補聴器について最近の状況を、ご紹介して参りましたが、今回をもって本連載は一段落とさせていただきます。ここで、皆様が補聴器を使用しているかどうかに関わらず、ご理解いただきたいのは、補聴器は生活の質を向上するポジティブな道具であるということです。

二つめは、急に大きくなった音に含まれる必要のない音と雑音を切り分けられるようになるのにも時間を要するということです。三つ目にそれまで言葉の刺激が少なかった分、耳も脳も言葉を聞きとめることを忘れてしまっているため、音を聞いて「ハイハイ」と脳が再学習し理解できるようになる

るまで時間がかかることです。

従って、補聴器の効果を最大限引き出すためには、正しく聴力測定し、現在の聴力と言葉を聞きとめる力の限界と目標を確認して、「慣れ」の度合いを見ながら少しずつ目標の音に近づける必要があるのです。

加えて、聴力によっては補聴器の効果に限界があるということもご理解頂きたいと思えます。例えば、補聴器をせずに大きな声で話した時、言葉を90%聞き取れる状態であれば、補聴器を使用しても聴こえにくさは残ります。もともと補聴器というのは、普通の声の大きさを話す言葉を90%聞き取れる状態を目指すものだからです。そのため、難聴者に対しては補聴器を使っても周囲のちょっとした配慮が必要になります。

疾患や加齢で聞こえにくくなることは誰にでも起こり得ることです。評判や周囲の目を気にされて、あるいは最初の補聴器がうまくいかなくて、聞こえにくさを我慢している方も大勢居られるかと思いますが、補聴器についてご理解頂

き、是非挑戦して頂きたいと思っております。

最後になりますが、私共は補聴器で最良の効果が得られるよう、先進的な手法を取り入れ、科学的根拠に基づいた調整を目に見えぬ形でお伝えし、ご納得頂けるように心がけております。当店は小さなお子様から動き盛りの方、御高齢の方まで、さまざまなお客様の方場立って、きこえにお困りの皆様や周囲の方のご不便、ご不満を解消するお手伝いができれば幸甚と考えております。補聴器を試してみたい、いままでも補聴器が合わなかった等、何かお困りのことがあれば、気兼ねなく御相談にお越し下さい。誠心誠意、対応させていただきます。